

一 倉 宮

五 鉄 道

(一) 私鉄阿南鉄道

大正四年(一九一五)一月着工、翌年十二月阿南鉄道会社の軽便鉄道が開通を見るに至った。徳島鉄道と中田駅で連絡し、南小松島・赤石・立江・羽ノ浦・古庄駅に至る間である。羽ノ浦町民も近代的な交通機関の恩恵に浴するようになった。

(二) 国鉄牟岐線

昭和十二年(一九三七)阿南鉄道は国鉄に買収せられ、羽浦・中島・富岡方面に開通、昭和十七年牟岐線全線が開通して上下便六十往復急行四往復とスピードアップされ更に便利となった。

(三) 民営JR四国鉄道

昭和六十一年(一九八六)民営化されて、上下便急行便も増便された。営業も航空券、宿泊、貸切バス、旅行等を大々的に斡旋している。

(四) 羽ノ浦駅の年譜

当町と鉄道の結びつきは随分と古く、大正五年

(一九一六)十二月十五日、阿南鉄道株式会社により中田

・古庄間六、五キロメートルが開通したことに始まる。

当時小松島・徳島間には、大正二年(一九一三)四月二十日、

阿波共同汽船株式会社により建設された小松島軽便線

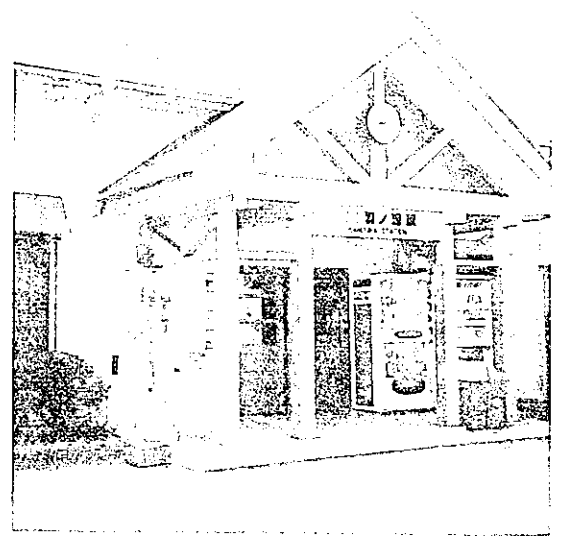
や汽船連絡線の竣工と同時に、鉄道院が借上げ営業し

ていた。大正四年、中田を接続駅として、南小松島・金磯・赤石・立江の各駅と羽ノ浦・古庄の両駅が誕生した。

大正六年(一九一七)小松島軽便鉄道は鉄道院に売却されて小松島線となったが、阿南鉄道はその後鉄道省に買収される迄二十年間私鉄として活躍した。昭和十一年(一九三六)三月二十七日鉄道省により羽ノ浦・桑野間が開通、その年の七月一日には阿南鉄道が国有となり、中田・桑野間は牟岐線として発足した。古庄駅は貨物専用駅として木材

輸送に活躍したが、昭和三十六年(一九六三)三月三十一日廃止された。

牟岐線は、その後逐次延長されて、昭和十二年(一九三七)阿波福井まで、昭和十四年(一九三九)日和佐まで、昭和十



JR羽ノ浦駅

七年(一九四三)牟岐まで、昭和四十八年(一九七三)海部まで延長された。列車回数も大正五年(一九一六)阿南鉄道開業当時古庄・中田間の普通列車が七往復、運転されていた。国鉄となって、昭和二十二年(一九四七)で十六回、昭和三十四年(一九五九)三十六回、昭和三十五年(一九六〇)では六十九回、昭和四十五年(一九七〇)急行新設で四十七回、昭和六十年(一九八五)五十八回、JR四国旅客鉄道株式会社となった昭和六十二年(一九八七)で五十五回、平成二年(一九九〇)では六十二回とますます増便された。(JR羽ノ浦駅十四代駅長、早見邦夫記)